

総合的な評価（中間評価）報告書（案）に関する意見照会結果等及び対応案について

1 総合的な評価（中間評価）報告書（案）への意見等について ※誤記の訂正、軽微な文言修正（追記）等は除く

- 意見 （19件）【整理No. 1～5、7～20】
- ◆ 質問 （1件）【整理No. 6】

2 各意見に対する対応案について

意見の内容に応じて、中間評価報告書の評価コメント等に記載するなどの対応案について以下のとおり区分した。

- 【評価本文】 委員からの意見の主旨に沿って評価コメント本文に記載、又は評価コメント本文を修正、加除した。
- 【報告書反映】 評価コメント以外の箇所の意見、報告書の表記の仕方等に関する意見として、報告書に反映した。
- 【その他】 点検結果報告書に記載する以外の方法で対応した。

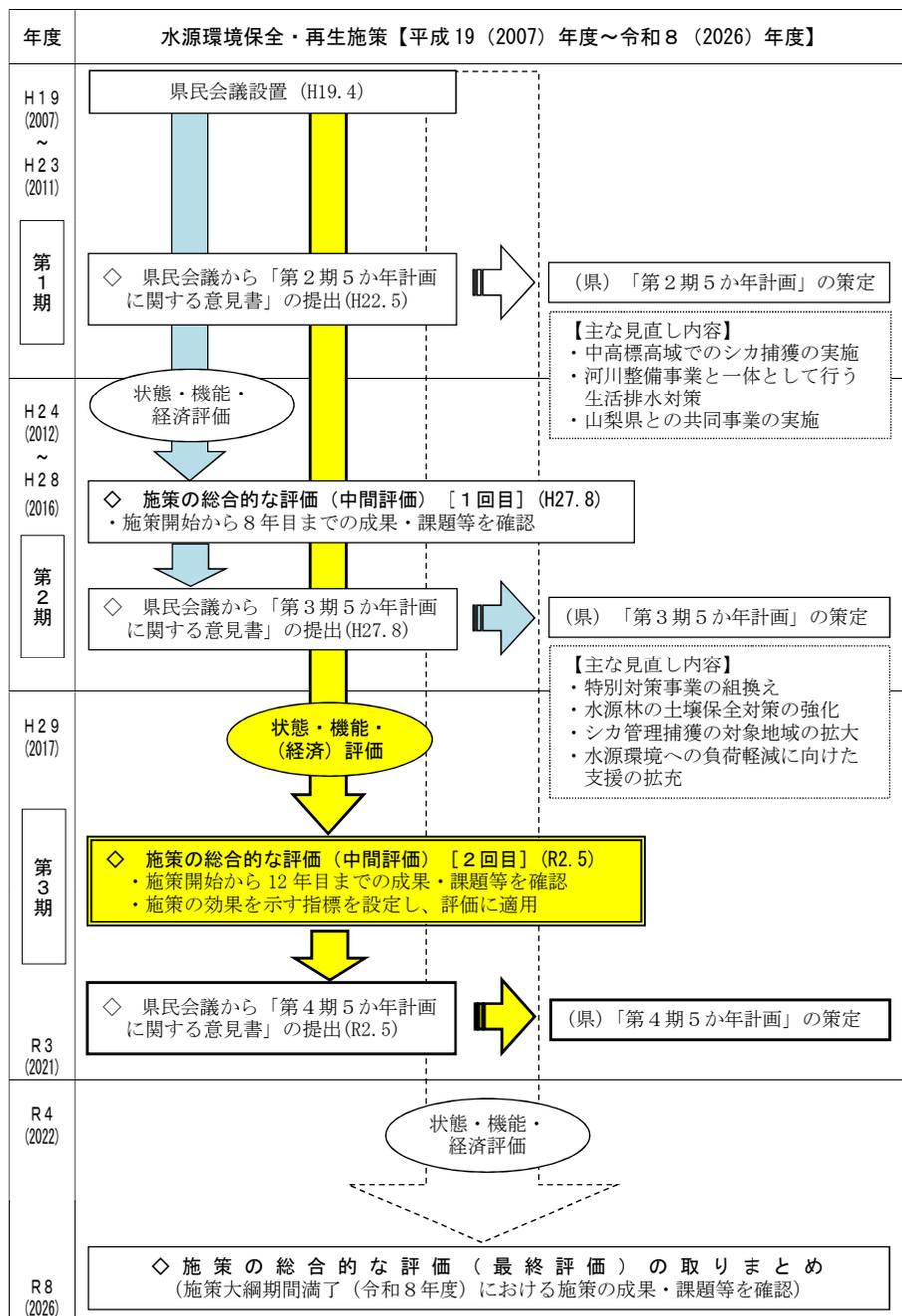
3 意見別対応案一覧

事業名	整理No	意見	委員名	対応案
全体・はじめに	1	○ 表紙を点検結果報告書と同じ記載にできないか。 ・報告書名：一水源環境保全税による特別対策事業の総合的な評価（中間評価）報告書二 （対応）既存事業による成果も含め評価している箇所がありますので、元タイトルのままに留めています。 ・しずくちゃん（イラスト）の追記	岡田	その他 ※左記のとおり対応 報告書反映
	2	○ いつからいつまでの中間評価なのか、第1期や第2期がいつからいつまでを指すのか分かりにくいので、「はじめに」の後にタイムテーブルを記載し、西暦と元号で該当期間を示したほうが良い。また、総合的な評価（中間評価）は5か年ごとの評価ではなく、施策開始時からの積み上げの評価であることが分かるようにしていただきたい。	羽澄、岡田	報告書反映 【議論のポイント①】 （別紙1）
	3	○ 最初にサマリー（要約）を記載し、全体の内容が分かるようにできると良い。	大沼	報告書反映 【議論のポイント①】 （別紙1）
	4	○ 表紙も含めて文章中の年号は、元号と西暦の併記に努めるのがよい。 （対応）表紙、はじめに、タイムテーブル（別紙1）までは併記し、以降は元号表記としております。	岡田	その他 ※左記のとおり対応

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
(続き) 全体・ はじめに	5	○ 第3部に重要な点が入っているが、全体として見えにくい構成と実感する。	吉村	【議論のポイント③】
	6	◆ 1部・2部は白黒印刷、3部はカラー印刷だが、最終的な印刷物は白黒になるのか？ 最終的な印刷形態に合わせたもので議論するのがよい。 (回答) 最終的な印刷物はカラー印刷となりますが、印刷費等の兼ね合いから会議資料は白黒で印刷させていただきます、カラーの確認は電子データでお願いします。	岡田	その他 ※左記のとおり回答
第1部 かながわの 水源	7	○ 第1部に記載のデータに関して、出来る限り最新のデータにして欲しい。	鈴木	報告書反映
	8	○ 第1部のデータは、直近までのものを提示すべき。 繰り返し感が生じるとしても、直近までのデータの方が違和感はなく、わかりやすさにつながる。	岡田	報告書反映
第2部 水源環境 保全・再生 施策と展開	9	○ (41、42ページ) 41 ページの下注釈の枠内外もしくは 42 ページで、「特別対策事業と既存事業等との関係」などを言及してはどうか。 特別対策事業が既存事業とどのような関わりの中で実施されているのかは、読み手にとっては興味のある点でまた内容に入りやすい点でもあるため、説明を追記したほうがよいと感じた。	岡田	報告書反映
第3部 水源環境 保全・再生の 施策の 総合的な評価 (中間評価)	10	○ (45 ページ) (1) 事業費について、文中に実績一覧の記載ページを追記しないと、計画通り事業執行されているかが判断できない。	宮下	評価本文
	11	○ (49ページ) 表2の上下流削減率が難解である。	吉村	報告書反映 ※評価データを表からグラフに変更
	12	○ (50 ページ) 指標④の文中に、「相模湖や津久井湖の窒素及びリンの濃度は依然として高い状態にある」と記載があるが、引用ページを記載すると理解しやすくなる。	宮下	評価本文

事業名	整理№	意見	委員名	対応案
(続き) 第3部 水源環境 保全・再生の 施策の 総合的な評価 (中間評価)	13	○ (52 ページ) 指標⑦「地下水の水位レベル」に関しても図示できるとよい。	吉村	報告書反映
	14	○ (53ページ) 指標⑩の本文で、「一方、利根川水系が…」と他水系の固有名詞を出し、具体的に取水制限が行われた年と日数が入っているが、この表現は妥当かどうか。他水系の批判をし、神奈川県の良いさをアピールしているような違和感を覚える。	増田	評価本文
	15	○ (53ページ) 指標⑩の本文に、「…非常に安定した水の供給を可能にしているといえます。」との記載があるが、「非常に」は削除してもよいのではないか。 (理由) 取水制限は長年にわたって出されていないものの、夏場のダム湖の水位低下や台風等の懸念は常にある中での結果であると捉えるため。また、「非常に」よい結果が出ているのであれば、取組を継続する必要はないのではないかと、読み手に誤解を与える懸念もある。	根岸	評価本文
	16	○ (53 ページ) 指標⑩「取水制限の日数」について、ダムの貯水量や水位の状況、流入・流出の状況など水資源管理の情報が神奈川県にあると思うので、そうした情報を分かりやすい形で補足的に掲載できると良い。	吉村	【議論のポイント②】 (別紙2)
	17	○ (54 ページ) 2行目に構造図の記載があるが、該当ページを記載したほうが分かりやすい。	宮下	評価本文
	18	○ (54 ページ) 10行目に森林モニタリングが記載されているが、関連ページを記載したほうが分かりやすい。	宮下	評価本文
	19	○ (55 ページ) 「4 施策全体の目的(最終的アウトカム)による評価」に経済評価に関するコメントの記載がない。第3期では実施しないが、施策の最終評価に向けて実施予定である旨を記載してはどうか。	鈴木	評価本文
	20	○ (56ページ) 水源保全地域の経済的価値の改善に対する評価については、触れる必要はないか。	宮下	評価本文

## 水源環境保全・再生施策の総合的な評価について



## 施策開始から 12 年目までの成果・課題等について

## 森林の保全・再生

荒廃が進んでいた私有林で重点的に整備を行うとともに、シカの管理捕獲等を進めた結果、下層植生が回復し、土壤保全が図られるなどの成果が出ています。(詳しくは P●～P●参照)



整備前



整備後

## 河川の保全・再生

生態系に配慮した河川整備等を行った結果、水質の向上やきれいな水を好む生物が増えるなど、水環境が改善している地点も出てきています。(詳しくは P●～P●参照)



整備前



整備後

## 地下水の保全・再生

地下水かん養対策の効果により地下水の水位は維持されています。また、これまでの汚染対策の効果により地下水の水質が改善されています。(詳しくは P●～P●参照)



地下水汚染対策



地下水かん養対策

## 水源環境への負荷軽減

事業実施により着実に成果は上がっているものの、近年の事業進捗の遅れが課題となっていることから、原因等の分析を行うとともに、関係自治体とも連携を密にし、改善策を検討すべきです。(詳しくは P●～P●参照)



一般家庭への浄化槽設置



公共下水道の整備

## 全体総括

これまでの取組により、一定の事業効果は現れていますが、施策の最終目的である「良質な水の安定的確保」に向けては、引き続き取り組むべき課題があり、気候変動などの長期的な変化への対応も求められるため、今後もかながわ水源環境保全・再生施策大綱に掲げられている将来像に向けて着実に取組を進める必要があります。なお、施策全体の計画期間は 20 年と定められていることから、施策大綱期間終了後も意識し、これからの施策展開を考える必要があります。

また、事業費及び事業量についても一部の取組を除き、概ね計画どおりに執行・進捗していることから、財源についても、引き続き水源環境保全税により安定的に確保し、各事業に継続的に取り組むべきと考えます。(詳しくは P●～P●参照)

相模川水系ダムの貯水量(相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖)

